

婦負の野



ISO9001 認証取得

〒930-0143
富山県富山市西金屋6682番地
社会福祉法人めひの野園
TEL.076-436-0270
発行責任者 中田 匡
(表題書)
高岡市中川上町3の31
(故) 社浦 获水先生

栽培・堆肥部門で育てられた
シクラメンの花

シイタケ生産の更なる発展を祈念して
あけましておめでとございます。

当社は1942年(昭和17年)、創立者である農学博士・森喜作による画期的な「たねごま」の発明により、世界で初めてシイタケの人工栽培に成功しました。開発以前のシイタケ栽培は、原木に鉋で傷をつけ、自然にシイタケの胞子が活着するのを待つという、非常に不確実な方法で行われていたため、「たねごま」の開発は農山村に生きる人々に大きな福音をもたらしました。以来、当社はキノコの品種開発や栽培技術の向上に努め、人々から料理に欠かせない食材として認知されるよう、食品分野での地位向上を目指しています。

シイタケの栽培は、ナラやクヌギなどにシイタケの菌を接種する原木栽培と、広葉樹のおが粉に栄養分を添加した培地と呼ばれるものに接種する菌床栽培に大別されます。めひの野園様では、全国でもいち早く菌床シイタケ栽培に取り組まれ、現在では生シイタケの生産だけではなく、菌床の製造、他のキノコ生産者へ菌床を供給する工場としても活躍されています。菌床シイタケの栽培は全国各地の社会福祉法人で取り入れられており、農福連携を実現できるものです。農福連携とは、障害のある方が農業分野で活躍することで、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みです。担い手不足や高齢化が進む農業分野においても、新たな働き手の確保につながる可能性があります。菌床シイタケ栽培は危険が少なく、安定した作業、収穫量が確保できるため、農福連携事業と非常に相性が良いのです。

今後とも安心・安全で高品質なシイタケ栽培を行っていただけるよう、弊社としても全力でバックアップし、めひの野園様の更なる発展を支援していく所存です。

森産業株式会社 代表取締役社長 森 裕美

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

あしたのめひの

第22回 茶道教室 ~一碗のお抹茶が培う心~



「今日はどの掛け軸にしようか、どんなお花を生けようか…」と、利用者さんを思いながら準備するのが何よりの楽しみと話す島倉生活支援員

めひの野園では設立当初から茶道を通して和の心に親しみ、大切なお客様へのおもてなしとして一碗のお茶を振る舞ってきました。
今回は、茶道教室講師の島倉孝子生活支援員(裏千家準教授)に話を聞きました。

Q: 茶道教室が昨年10月から行われていますが、どのような経緯で始まったのですか?

園長が「コロナ禍で誰もが籠りがちになっていたので、利用者さんを対象に茶道教室の参加者を募ったらどうですか」と声をかけてくださったのです。私はそのひと言で元気を頂きました。

Q: 開催場所は「春の苑」ですが、そもそも施設内に立派なお茶室があることがすごいですね。

法人設立当初は仮設の茶室や体育館で、「ひな祭り茶会」や「七夕茶会」を行っていました。その後、春の苑が建てられた時にこのお茶室も作られたのです。お茶室の名前は、臨済宗国泰寺派の澤大道老師が「愈好軒」と命名されました。以来、地域の皆さんを対象に茶道教室を開講し

たり、「りんどう祭」で来園された方にお茶をもてなしたりと、地域交流の場として使われてきました。海外から視察に来られた方々へのおもてなしに使われたこともあるんですよ。お茶を頂くだけではなく、床の間に掛けられた澤大道老師の書や、めひの野園焼の茶碗といった道具を觀賞するのも楽しみとなっています。



入口に掛けられた「扁額」は澤大道老師の揮毫によるもの

Q: 普段は元気いっぱい利用者の皆さんが、お茶室に入った途端落ち着く様子に、どの職員も驚きを隠せません。まるで魔法みたいですね?

魔法ではありませんよ(笑)。控える間で白い靴下を履き、扇子を持って茶室に入ると、障害の有無に関わらず、人は皆、お茶の精神である「和敬静寂」の「寂」の心を感じるのではないのでしょうか。

Q: 茶道を通して感じたことは?

お稽古を進めるうちに、懐紙を左掌にのせ、黒文字を使ってお菓子を口にする時の表情や、お茶碗をそっと廻す仕種、そして「あくおいしい!」の言葉に感動し、一人ひとりの新たな表情の発見に毎回心が躍ります。



「お茶碗はこうやって持つのよ」。利用者さん一人ひとりの手を取り、お茶碗の廻し方を教える島倉支援員

便利な世の中になりましたが、現代社会では心の豊かさや心の安らぎ、礼儀正しさといった情緒や心が失われつつあるように感じています。

茶道は日本の大切な伝統文化であると共に、礼に始まり礼に終わるお稽古を通じて、そのような大切な心が培われる場でもあると思っています。

本格的な作法や道具に感動しました!
記: 広報委員会 柴田 香菜江



食を彩る旬の幸

「食彩部門が創る『めひの味』」



食彩部門の「柚子味噌」をかけたほくほくの「ふるふき大根」は、寒い時季にぴったり。大根、柚子は栽培・堆肥部門で生産されたもの

vol.2 柚子の香り広がる「柚子味噌」

食材本来の風味を活かして
利用者が柚子を搾りおろすと、調理場は柚子の香りに包まれます。「食彩部門」担当の寺岡主幹は、「この柚子の香りを生かすために、余計なものはいらず、無添加にこだわっています。蓋を開けた瞬間に広がる柚子の香りをお楽しみください。」と話します。



調理場に運ばれた採れたばかりの柚子を、利用者が1つつ搾りおろしていきます

ウォーム・ワークやぶなみ「食彩部門」では、めひの野園で生産されている様々な食材の調理・加工を行っています。

11月下旬、今年も「栽培・堆肥部門」の畑に植えられた柚子の木に、実がたわわに実りました。それをハサミで一つずつ摘み取り、利用者さんが持つコテナに入れていきます。

います。

素材の良さをそのまま活かした季節ごとの「めひの野園の味」。

このコーナーでは、その美味しさの秘密を皆さんにお伝えしていきます。



1本の木には40~50個ほどの実がなります

柚子には豊富なビタミンCが含まれ、風邪を予防し、免疫力を高める効果があるとされています。「食は健康の基本。旬の食材は味が良いのももちろん、人の体にうまく働きかけてくれます。やぶなみの柚子で、冬の体調を整えましょう!」と寺岡主幹。食彩部門の「柚子味噌」は、当園のアンテナショップ「希望」の他、JAの直売所などで販売中です。

風味や色合いを引き立ててくれる柚子は料理の名脇役です。
記・広報委員会 保木 諭吉



群竹 muretaka

めひの野園職員
の雑感コーナー



やねのうえのガチョウ
石川 権一

「空飛ぶ円盤」に魅せられて20年近くになる。宇宙人が乗るそれではなく、独特の浮遊感を漂わせるプラスチック製の円盤、いわゆる「フリスビー」のことである。

ちなみに「フリスビー」は商標で、一般名称は「フライングディスク」が正しく、その起源は1940年代の米国で大学生がパイ皿を投げて遊んだことにある。レジャーのイメージが強いが、実はIOC承認競技にも選ばれており、誕生の地・米国で開催される2028年のロサンゼルス五輪では追加種目入りも検討されている。

そのフライングディスク競技のひとつに「ディスクゴルフ」というものがある。基本的なルールはゴルフと同じだが、地形や風を読み、ボールを打つ代わりにフライングディスクを投げ、バスケット型の専用ゴールに何投で入れることが出来るかを競うものだ。遠くへ飛び、狙い通りに飛ぶ、その爽快感は格別なものがある。

コロナ禍以前は、週末になれば全国各地で開催される試合に出向いていたが、この2年はその多くが中止を余儀なくされた。

しかし、暗い話題ばかりではない。日本ではまだマイナースポーツの域を出ないが、「密を避けられるスポーツ」として、新たに競技を始める人が増えた。また、自身も地元のコースに留まり、練習する時間が増え、少しは技術向上に繋がった(はずだ)。

再び自由に全国を足踏する日が訪れ、新たな仲間たちと交流できることを今は楽しみにしている。私の期待を乗せた「空飛ぶ円盤」は、この週末もまた、富山の空を飛び交っていることだろう。

めひのキラリ！人

Vol.6



今回のキラリ！人
 ウォーム・ワークやぶなみ
 栽培・堆肥部門
福田 藍子さん

めひの野園では、「利用者さんの出来ること、得意なこと、好きなことを活かし、仕事につなげていく」ことをモットーに支援をしています。利用者さんの中には、自分の仕事に没頭するうちに素晴らしい技術を身に付け、いつしか「めひの職人」と呼ばれている人々がいます。そんな「キラリ！」と光る「めひの職人達」を紹介していきます！

花を愛する大和撫子。
 今回の職人は人呼んで・・・

めひの「花摘み職人」。

ウォーム・ワークやぶなみ「栽培・堆肥部門」では、旬の野菜を栽培すると共に、栽培ハウスでは四季折々の花苗を育てています。

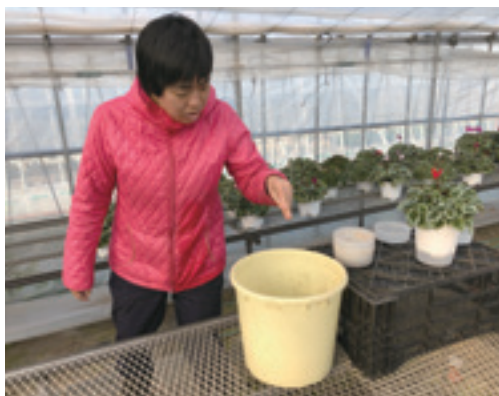
雪が散らつくこの時季に旬を迎える花は「シクラメン」。その鉢を丁寧に拭いているのが、「めひの花摘み職人」こと、福



丁寧に「花摘み作業」を行う福田さん

田藍子さんです。「四季を通じて花の栽培に大切な作業は『花摘み』です」と話すのは、栽培・堆肥部門担当の西尾職業指導員。「花摘み」とは、鉢の中で枯れてしまった花を一つひとつ丁寧に取り除く作業で、他の花まで枯れてしまうのを防ぐのに必要な作業なのだから。「福田さんはすぐく器用で、丁寧に『花ガラ』を取ってくれるので、どの鉢の花もキレイに咲いてくれます」と西尾職業指導員。

「当部門の作業は力仕事が多いので男性の利用者さんばかりなのですが、紅一点の福田さんの存在は大きいです」と話すのは同部門担当の保木職業指導員。何気なくハウス内を動いているようで、職員も気付かないようなゴミや、鉢の中の花ガラを拾ってくれています。「本人にとっ



鉢に落ちている「花ガラ」を専用のバケツに片づけていく福田さん。おかげでハウス内はいつもキレイ！

てもここでの仕事は性に合っているのではないのでしょうか。知らず知らずのうちに、ハウス内がキレイになっているんですよ」と、喜びを隠せません。

昨年4月に開設された女性専用のグループホーム「なでしこ」で新しい生活が始まった福田さんですが、「栽培・堆肥部門」での日中作業は、これまでも全く変わりなく取り組んでいます。

これからもこの職場で生き生きと頑張っていて、キレイな花苗を育てていってくださいな！

鉢の中の小さな花ガラも見逃さない細やかさが、本人の強みとして作業に活かされていました。

記：広報委員会 岡崎 秀徳



MVPは花崎

花崎良昭



めひの野園野球部は今シーズンの全日程が終了した。
 コロナ禍で大会の規模縮小や出場を辞退するチームが相次ぐ中、めひの野園野球部はひたむきに野球に情熱を注いだ。そして、毎年の中田監督が選出する最優秀選手賞には花崎選手(春の苑生活支援員)が輝いた。

めひのスポーツ 野球部シーズン終了



真摯に野球に打ち込み、今シーズンを戦い抜いためひの野園野球部員たち。後ろに設置されているバックネットは、今シーズン同部から呉羽リーグに寄贈された物

Q. MVPに輝いた感想は？
 入部一年目の自分が頂いていいのかというのが正直な気持ちです。仕事に、野球にとガムシャラに取り組んだ一年でしたが、中田監督にMVPという評価をして頂き、この一年の頑張りが報われたような気がしています！

Q. 来季の展望は？
 野球において、守備



チーム内首位打者

室澤尚史

は「才能やセンス」ではなく、「努力が反映される」と言われます。その意味では学生時代から練習を重ねてきた守備には自信があります。今シーズンは久しぶりの実戦ということもあり、エラーもありましたが、来季は内野の守備で今季以上にチームに貢献したいと思っています！

Q. チーム内首位打者の感想は？
 安打数は何人が並びましたが、四球が多かった分、打率が伸びました。選球眼の良さで差がつかしましたね。

Q. チームの主将と4番を兼ねてプレッシャーもあつたのでは？
 プレッシャーはありません(笑)。むしろコロナ禍でもモチベーションを下げることなく日々の練習に打ち込む部員たちの姿を、これほど頼もしく感じられたシーズンはありませんでした。

Q. 来季の展望は？
 試合の自粛が相次ぐ中、「野球がしたい！」という思い、そして野球を続けられることへの感謝の気持ちが溢れています。以前のように大会が再開した時には、これまでの鬱憤を晴らし、大暴れしたいと思っています！

バックネット

寄贈に感謝状

呉羽リーグ等で使用する機会も多い富山県立大学サブグラウンドのバックネットが、一昨年の大きな台風で破損しました。これを見兼ねた中田園長は、野球部から新しいバックネットを寄贈することを決められました。
 今シーズン、グラウンドには真新しいバックネットが設置され、このたびは呉羽リーグから感謝状・記念品が贈呈されました。



2021年度チーム成績表

④	③	②	①
焼肉慶(練習試合)	焼肉慶(呉羽リーグ)	バブリンズ(呉羽リーグ)	焼肉慶(練習試合)
2-1	4-0	3-0	3-0
○	○	○	○

こんな支援が あったまる!

第13回「春の苑」の挑戦!
~新たな可能性を見出す「作業体験」~

「こんな今だからこそ!」利用者さんの「出来ること」を再発見!
コロナ禍において様々な活動が制限される中、春の苑でも、社会体験や旅行といった、利用者さんの楽しみと言える活動を自粛しています。利用者さんにとって「充実感」や「満足感」を味わえる機会が減っている今だからこそ、一人ひとりの「出来ること」や「出来るかもしれないこと」に目を向け、新たな可能性を見出そうと始めたのが「作業体験」です。
無理をする必要はありません。利用者さんの「出来た!」「楽しい!」を引き出すための取り組みを紹介します!

ウォーム・ワークやぶなみで、卵のパッケージ文字書きに挑戦!

「鶏卵・堆肥部門」で生産された卵のパッケージの文字書きに、得意の習字を活かして挑戦しました。台紙にはみしまの工房・和紙班の手すき和紙を使い、一枚一枚丁寧に書いていきました。



筆ペンを使い、ゆっくり自分のペースで書いていきます

優しさが感じられる字で、思い描いていた以上に可愛らしいパッケージになりました。

鶏卵・堆肥部門担当
酒井 いづみ指導員



みしまの工房で、はたおりに挑戦!

みしまの工房の「はたおり班」では、卓上型の織り機を使い、コースター作りに挑戦しました。



自分の好きな色の糸を使い、おしゃれなコースターを作ります

持ち前の器用さを活かし、すぐに織れるようになりました。はたおりは織った

分だけ布が長くなっていくので、成果が目で見えて分かりやすく、利用者さんにとって楽しい作業のようです。

織り機の複雑な手順を学ぼうとする前向きな姿勢が見られ、一人で出来るようになる日も近いです。

はたおり班担当
柴田 香菜江支援員



作業センターぶじなみで、したいだけのパック詰め挑戦!

パックセンターにはたくさんの作業工程がありますが、作業環境は視覚への働きかけが多く、分かりやすく整理されています。ハサミを使った椎茸の軸切りや、計量、パック詰め等の作業に集中して取り組んでいます。

「これ以上は無理」と諦めずに、「ここまで出来たら次の段階もきつと出来る」と考えることが大切ですね。

作業センターぶじなみ
室 賢一主幹



分からないことは職員に聞きながら作業に取り組みます

利用者さんの「出来た!」「楽しい!」がこれからもっと増えたいですね!

記・広報委員会 浦田 茉耶



祝! 成人

今年めひの野園では2人の利用者さんが成人されました。新しい門出を迎えた2人を紹介します。

春の苑 リサイクル班
東 伶斗さん



リサイクル班で、空き缶のプルタブ取りを頑張っています

保護者の声

成人おめでとうございます。あなたの笑顔にはいつも癒されています。出来ることが少しずつ増えてるといいですね。

飛騨流葉牧場
徳井 優香さん



加工部門で、ラッピングのラベル貼りを頑張っています

保護者の声

成人おめでとう。いつも丁寧な作業で頑張っていますね。支援員さんに作業ぶりを聞いて安心しています。これからも頑張ってくださいね。応援しています。

しいたけくん

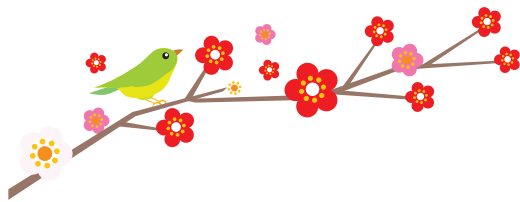


ご寄付ありがとうございました。

(2021.8.17~2021.12.31) 敬称略

- 佐藤理容院 富山市
- 東京福祉大学 群馬県伊勢崎市
- 富山福祉短期大学 射水市
- めひの野園保護者会
- (財)日本総合研究所 愛知県名古屋市長屋市
- 富山国際大学 富山市
- 竹本 潔史 富山市
- 廣田 美千代 富山市
- 亀山 知己 富山市
- 今井 哲治 富山市
- 福田 博之 射水市

寄付金振込口座番号
 北陸銀行呉羽支店 店番号120
 普通預金6077230
 社会福祉法人 めひの野園



来訪者

(2021.9.21~2021.12.31) 敬称略

- URS ジャパン(株) 巻田 安雄
- 中田 一郎
- 池田 辰也
- 富山県社会保険労務士会 高島 訓司
- 富山市議会議員 江西 照康
- 富山市保健所 砂川真知子
- あいおいニッセイ同和損保 栗原 琴乃
- 富山市 山崎 竣也
- 恒川 貴志
- 鈴木 圭
- 飯田 泰弘
- 山岸 親史
- 北谷 俊輔
- 山岸 敏行
- 定広 聡
- 島瀬 圭介
- 中山 暢士
- 千谷 武
- 谷口 宏貴
- 中畑 正志
- 城村 賛
- 長森 智昭
- 富山県火災共済協同組合
- 住友三井オートサービス(株)
- 株サワヤ
- 株フードシステム
- 株サワヤ
- 株アペックス
- 株ダイドードリンコ北陸
- 山口(株)
- 北陸電力(株)
- 株サワヤ
- 住友三井オートサービス(株)
- 富山県火災共済協同組合

後援会名簿

(2021.9.11~2021.12.31) 敬称略

- 青木 良成 富山市
- 浅井 貴代美 富山市
- 石政 明美 富山市
- 金川 弘行 富山市
- 杉木 良子 富山市
- 杉本 明久 富山市
- 富堂 聖子 富山市
- 中村 有一 富山市
- 成田 昭二 富山市
- 西 孝浩 富山市
- 野村 利美子 富山市
- 廣田 雅俊 富山市
- 山本 幸夫 富山市
- 江西 照康 富山市
- 鍋島 朋子 富山市
- 安元 明美 富山市
- 下新川郡 射水市

後援会振込口座番号
 北陸銀行五福支店 店番号140
 普通預金4250590
 めひの野園後援会



編集後記

昨年度から本誌の表紙写真は中田園長の助言で「お花シリーズ」が続いている。第一弾は「春に呉羽地区を真っ白に敷きつめる梨の花」であった。撮影者は広報委員会の柴田支援員。手前の花にピントを合わせ、遠景をボカして主役を惹き立てている写真に、思わず「どうやって撮ったのか」と聞くと、「背伸びして、スマホを花に近づけて、『エイヤツ』と撮りました!」とのことだった。(ビギナーズラックであつた...)

季節は梅雨に移り、園長から出された第二弾のお題は、「園の敷地内に咲いている、前理事長が愛した紫陽花」。さらに、「紫陽花は雨に濡れているのが良い」というオマケが付いた。柴田委員の言葉を思い出し、スマホを紫陽花に近づけて、「エイヤツ」と撮った写真は、敢え無くボツになった。ワラにもすがる思いで「写真愛好家」の呼び声高い「やねのうえのガチョウ」の石川主任に撮影をお願いすると、「カメラは雨を嫌うんだよな...」とボヤキながらも応じてくれた。シートと雨が降る中、ゴツイカメラを構え、シャッターを押し続ける間、彼の口から「エイヤツ」という声は聞こえなかった。そして愛機である「Nikkor」の一眼レフを、愛おしくように撮影する彼の姿にすっかり魅せられた私は決心した。「よし、カメラを買おう!」と。

当園の職員には彼を始め「写真愛好家」が多い。そんな皆から助言をもらい、清水の舞台から飛び降りる思いで昨年末に購入したのは、「Canon・EOS RP」というミラーレスカメラ。初心者にも扱いやすく、本格的な映像も楽しめるという、私に打ってつけの一台である。

2022年の本誌は、我が愛機力を借りて写真レベルを向上させ、読者の心に残るものになりたいと思う。乞うご期待。

(岡崎 記)